# きゅうりこれからの管理

暖かくなるにつれ、日照時間も長くなり、夜温も高くなり加温機の稼働時間はほとんどなくなります。きゅうりの蒸散量も多くなるとハウス内が高温多湿条件下になりやすくなります。特に曇雨天時では葉が乾かない状況も出てきますので、ハウスの換気徹底に心掛けましょう。

## 【促成及び半促成胡瓜について】

促成栽培では長期間栽培による草勢低下と、半促成栽培では前半での根張りの悪さが影響し、気温上昇による成り込み後の草勢低下が極端にでると想定されます。今年については１月の時点でその兆候が見られ始めています。草勢の維持管理を考え管理を行ないましょう。

つる下ろし栽培の場合は雌花の開花位置・収穫位置・節間の長さがどうであるかを観察し、その状況に応じた遮光・摘果・潅水量・換気を行って下さい。

摘芯栽培の場合は極端な摘葉・摘芯は避け半放任的に整枝管理を行って下さい。ただし、上段部分の延びすぎる枝については混み合わないように摘芯しましょう。

## 【早熟胡瓜について】

早熟栽培につきましては、定植直後の方は鉢土が乾燥すると、側枝の発生が悪くなってきます。十分な潅水を行って下さい。定植後、雌花優先で生育している場合には、親枝の雌花摘果節位を上げましょう。既に収穫に入っている方については、側枝の動きを見ながらの管理になりますが、伸びすぎる側枝が多いようであれば摘芯作業に加え、摘葉も行ないましょう。

## 【温度湿度管理】

ハウスの換気徹底を行っていくとハウス内は乾燥してきます。換気はサイドよりも先に妻面から行い、開け幅も一度に開けるのではなく少しずつ慣らす様に開けて下さい。特にサイドは一度に開けてしまうと乾燥によるベト病の発生につながります。

夜間につきましても、外気温が高くなるにつれ外気温に合わせた開閉を行なっていきましょう。夜間のハウス内の温度が高いと樹勢は低下していきます、変温管理を行っている方につきましては、定置温度にして下さい。

## 【潅水・液肥について】

日照時間が長くなるにつれハウスが開く時間が長くなる分、ハウス内は乾燥してきます。潅水量を増やしていきましょう。ただし、根が吸えていない状態での潅水は逆に根痛みの原因にもなりますので注意して下さい。

根を動かす為には、地上部の状態も良くなければいけません。葉面散布にて地上部の状態を良くしてから発根剤等の使用を行いましょう。

追肥につきましては、潅水ごとの施用となりますが葉の色・ツヤ・収穫量を見ながら行なっていきましょう。特に葉の色が濃く、ツヤがない状態であるところにつきましては側枝の伸びも悪いと考えますので、肥料の量は控えめにするか、水だけにしましょう。

定期的な葉面散布・発根剤の使用を行いましょう。場合によっては潅注も効果的です。

**葉面散布剤**　：　パワフルグリーン・メリット・ベストⅡ

**発　根　剤**　：　新ＲＢパワー　２～３ﾘｯﾄﾙ／10ａ・夢　３～５ﾘｯﾄﾙ／10ａ

## 【病害虫防除について】

ハウスの開口部分が多くなるにつれて害虫の外からハウス内への飛び込み、逆にハウス内から外への飛び出しが増えてくると同時に繁殖率も増加します。特にスリップス・アブラムシにつきましては、ウイルス

媒介虫でありますので、ハウス内の害虫密度の観察を徹底し、防除体系の徹底を行いましょう。粘着板の状態を確認し、粘着部分がなくなっているようであれば、張替えを検討して下さい。

害虫の他に病気の発生も増えてきます。しっかりと予防防除に努めましょう。

**【徹底をお願いします】**

ハウス周辺及びハウス内の除草対策はできていますか？雑草は害虫の温床になりますので、近隣農家への配慮も考え早い時点での除草対策徹底をお願い致します。

農薬関係について分からない事がありましたら、担当課まで御相談下さい。

## 果樹園の管理（４月）

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。４月の果樹園の管理は以下の通りです。

### １．かんきつ類全般

**１）剪定、縮間伐**

収穫の終了した園地では、早めに剪定を終わらせましょう。また、密植園では、樹幹上部しか光が当たらず、すそ枝がハゲ上がり、内部の葉が無く、枝が立ち貧弱な樹となります。さらに、果実肥大や品質が劣り、結果層が上部に集中するため、収量が低下し、防除や収穫の作業能率も低下しますので、適期の縮間伐が重要となります。

**２）葉面散布の実施**

発芽から緑化までの期間中は、葉面散布を実施して下さい。

…粟粒期から白化期はじょうのう数が決まる重要な時期です。そのため、多くの窒素分を必要としますので、白化期までに最低２回の葉面散布を実施しましょう。

目安→パワフルグリーン800倍又は尿素500倍

### ２．日向夏の管理

**１）収穫**

出荷期間中です。規格、基準を守って出荷して下さい。

加工日向夏の受入 … 月曜日、水曜日、金曜日での受入です。（祝祭日除く）

**２）病害虫防除**

収穫中の防除はできませんのでご注意下さい。

| 対象病害虫名 | 使用薬剤 | 希釈倍数 | 収穫前使用日数 | 使用回数 | 散布時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| そうか病 | デランフロアブル | １０００ | 30日前 | ３回以内 | 収穫終了園のみ |

### ３．スイートスプリングの管理

**１）病害虫防除**

スイートスプリングは毎年、かいよう病の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。また、かいよう病の被害枝は剪定時に必ず除去して下さい。

| 病害虫名 | 使用薬剤 | 使用倍数 | 使用方法 |
|---|---|---|---|
| かいよう病 | Ｚボルドー | ５００倍 | 混用散布 |
| | バイカルティ | １０００倍 | |

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用してください。少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先…生産指導課　電話　７７－２２１６

# 露地野菜生産者のみなさまへ

毎日の管理作業、お疲れ様です。朝晩の冷え込みも緩み、日中は暖かくなっています。晴天・曇雨天の偏りや一時的な寒の戻りなど、管理に気を使う時期でありますので、こまめな管理により収量・秀品率の向上を目指しましょう。

天候による気温の差が大きい時期でもあります。体調に留意し管理作業を行って下さい。

**［これからの管理］**

## ・里　芋・

早生種はマルチ栽培を行いますが、マルチに穴を開けず植え付けた場合、萌芽を始めたらマルチに穴を開けて芽出しをします。遅れると芽焼けを起こし、生育遅れや欠株になりますので遅れないよう注意しましょう。霜やけより芽やけの方が生育は遅れるので注意して下さい。

また、萌芽数が２本以上の場合は減収の原因となりますので、芽かぎを行い、大きい芽を１本残して下さい。

里芋は干ばつに弱いので降雨が無い場合は灌水を行って下さい。降雨により圃場に水が溜まると根傷みにより水晶芋（煮えない芋）の原因になりますので、排水溝と排水口の設置を行って下さい。

## ・里芋赤芽・

３月下旬から４月下旬が植え付け適期になりますが、なるべく４月下旬までには植え付けを終了して下さい。

生産の安定を図るためには、連作をしないことです。里芋は、連作による収量低下が著しく、２年連作すると25％減収し、３年連作では50％減収するといわれています。水田でも４年、畑では５年の輪作を原則とし、栽培を行って下さい。

『里芋は芽の部分が暗くないと芋のつきが悪く、肥大しない』と言われています。この特性から、梅雨明けと約１ヵ月後の８月頃に追肥・土寄せを行い、芋の肥大促進を図って下さい。

毎年生育や収量が思わしくない、という場合は、種芋自体が原因とも考えられます。種芋の更新で生育や収量が改善することもありますので、原因が分からない場合は相談して下さい。

## ・ジャガイモ・

湿害に非常に弱い為、排水溝と排水口の設置を行って下さい。曇雨天が続き、降水量が多い場合は疫病、高温・乾燥が続く場合はアブラムシ等の発生が予想されますので、降雨量が多い日は圃場の水の溜まり具合や排水状況の確認、圃場周辺の除草など必要に応じて対策を講じて下さい。

メークインは芽の数が多いと芋が小さくなります。１～２本に間引きを行い、芋の肥大促進を図って下さい。ただし、芽焼けにより脇芽が出ている場合は、間引かないで下さい。

遅霜の被害も予想されますので、パオパオ被覆など霜対策ができる圃場では保温資材を活用し、遅霜対策を行って下さい。

## ・春人参・

播種時期により収穫期が梅雨前～梅雨期にあたります。特に梅雨時期の収穫前の降雨は圃場内での腐敗等の発生につながることが考えられます。排水溝と排水口の整備等を行うと同時に、予防策を行い、収穫・出荷に備えて下さい。除草・間引きの徹底で収量に差がでます。最終株間は10cmを目安に、目標収量10ａ当り３ｔ以上を目指しましょう。

## ・ごぼう・

気温が高くなり、茎葉や根の生育が旺盛になる時期です。晴天が続く場合はアブラムシの発生に注意して下さい。

草が繁茂すると生育に影響しますので早めの除草を心がけて下さい。

## ・甘　藷・

出荷予定は７月中旬からになります。予定通り出荷を始められるよう栽培管理の徹底を行って下さい。挿苗後晴天が続き、圃場が乾燥するとアブラムシ・ダニ等が発生し生育が阻害されることがありますので、特に生育の初期は注意と確認をしましょう。

## ・かぼちゃ・

ハウス栽培ではウドンコ病の発生が多く見られますので、ハウス内の管理を十分行って下さい。

施肥の遅れは果実の肥大に影響します。有機質肥料は、施用後７～10日目頃から効果が出始め、14～20日後に肥効が最大になります。施肥が遅れると必要な時期に肥効が切れることも考えられますので注意して下さい。

## ◎そ　の　他

春作が終了し、秋作まで休作の圃場が増える時期になります。何も作付けしていない圃場には、緑肥作物を導入し、秋作の作付けに備えて下さい。また、４～５年以上休ませていない圃場でも、緑肥作物を作付けする事により地力の回復にもなりますので、なるべく作付けを行うようにして下さい。

生育が思わしくない圃場では、センチュウ検査と土壌分析をすることをお勧めします。連作障害等もありますが、品質と収量を確保するために、作付けの無い圃場では、検査をするようにお願い致します。

土壌の持込みは、開発センターまたは生産指導課まで。